

「部落差別解消推進条例から考える」

(1) 単元計画について

単元のためあて

「すべての人の「人権」が大切にされる社会の実現に向けて、自分にはどんなことができるだろう」

今回の実践では、たつの市教育委員会作成「部落史にかかる教材一覧表並びに教材集」や、本校独自の人権カリキュラムを活用し、系統立てた人権学習に取り組んだ。また、6年担任と推進教員が交互に授業を行い、児童の発言やふり返りの共有を行うことで、より児童の内面や人権課題に迫る単元づくりをめざしている。さらに、「人権ストーリーマップ」を活用し、児童の考えを付箋に整理することで、学習の可視化を図った。

(2) 本時の授業について

本時のためあて

差別のない社会の実現に向けて、差別を許さずなくそうとする立場について考えることを通して、自分自身の問題としてとらえ、解決していこうとする意欲を高める。

本時の児童の発言からは、「差別は絶対に許さない」ことはもちろん、以下のような発言が見られた。

- ・差別は現代でも残っているのに、知らないふりをしている人がいることに驚きました。
- ・差別のない社会をめざして、自分に何ができるのかについて話し合うことができました。私は、学習することの大切さについて考えることができました。
- ・差別のない社会に向けて、相手の気持ちを考えたほうがいいと思いました。みんなが相手の気持ちを考えあえたり、いいところを見つけあったりする社会になればいいと思いました。
- ・まだ差別はなくなっていないけど減ってはいると思いました。これまで習った人権学習を活かして頑張りたいです。
- ・まだ世の中には差別が残っていて、完全になくすことは難しいけど、自主的に人権について考えたことを家族に伝えたりすることで、意識が変わっていければと思います。

(3) 本時板書

私たちがめざす社会について考えよう

差別が残っている
人権が尊重されていない
無理解の人もある
身近にない

たつの市人権推進部調査
2006, 12

10年
大切にされていない
まだ十分ではない

たつの市部落差別の解消の推進に関する条例
2016, 12

自覚課題
差別の学習は必要で
時間がたつのを待てない
こんな考えを差別を
気づけない
両の人をやっていけるから

身近に差別がない
自分は差別がないから
他人ごと

私たちがめざす社会
協力しあえる社会
みんなが助け合える
人間に光がある
人権や一人一人の考えが尊重
分ちあうあえる
世界中の人みんなが、
人の良いところを見つけて合える
見てくれるだけの人にならない
自分が解決しなければ

伝へる
学習する
何とかしなければいけない

調査結果

調査項目	回答数	割合
差別が残っていると感じる	142	97.4%
差別のない社会を望む	142	97.4%
人権が尊重されていると感じる	10	6.9%
人権が尊重されていないと感じる	132	93.1%
無理解の人があると感じる	132	93.1%
無理解の人がないと感じる	10	6.9%
身近にない	132	93.1%
身近にある	10	6.9%

人種
男女
年齢
障害の有
SNS

